

地域特徴生かして

住民らまちづくり学ぶ

都城で講演

都城市妻ヶ丘地区まちづくり協議会の「まちづくり講演会」は20日、同市立野町の南

九州大であった。同大環境園芸学部の平岡直樹教授が「世界の、都市計画からわたしたちのまちづくりを考えよう」と題して講演。地域住民ら約70人が耳を傾けた。

平岡教授は最近流行のまちづくりの潮流について「生活の営みが色濃くにじみ出た、懐かしさや人間らしさを感じ

させる景観を重視する時代が来ている」と解説。「土木技術者による都市計画で町をつくっていく時代ではなく、生活者の視点に立って、住みやすいように町を『繕って』いく時代」と説明した。

その上で、都城市は盆地にしては平らな土地が多く、土地が広いので平屋住宅が多いこと、杉木立や屋敷林に加え小さな公園も多く緑が



まちづくりについて講演した南九州大の平岡教授

豊かである」と指摘。「歴史的、伝統的な町並みや施設の維持や再生を行い、ランドマークとしての高千穂峰が見える景観を生かしたまちづくりを進めてほしい」と提言した。

妻ヶ丘地区まちづくり協議会が開いた講演会でのこと。ま。「都城の道路は非常に分りづらい。ただ、ランドマークになっている高千穂峰を見つげると、自分が向かっている方向が分かる。高千穂峰を見せるため、わざと分りにくくしているのではないかなと思う」。講師を務めた南九州大の平岡直樹教授の説に、

べぶん舌

会場からは笑いが起きたが、市外から移り住んでいる一人として深くうなずいた。さすがに2年半近く取材で走り回り主要な道路のつながりは覚えていたが、1本裏通りに入るといまだにおぼつかない事がある。「いっそ、道が分かりづらいことを売りにしては？」という平岡教授の提案は、一考の価値があるかも。(脇)